

高体連全道大会報告（2種 16→25 プラン）

☆中井先生、武田先生、お忙しい中審判業務に就いていただき、ありがとうございました。

1 網走南ヶ丘高校 文責（沖野）

◎2回戦 6月12日（水）10:30～（室蘭市入江運動公園 芝生広場）

【結果】南ヶ丘 2 $\begin{pmatrix} 1-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$ 0 稚内大谷

気温 20 度前後で微風。非常に良い環境でした。ピッチコンディションは芝の下がやや硬めでボールがよく弾んでいました。芝はボールが滑りにくくて足下でボールを扱うとひっかかるような感覚がありますが、パススピードには支障はありませんでした。稚内大谷は1回戦で強豪根室に走り勝って自信と勢いがあるため、初戦の自分たちが受け身にならないように意識して試合に入りました。

良い立ち上がりでした。前線～中盤でのタイトな守備と素早い切り替えで、何度か相手ゴールに迫りました。稚内は DF ラインが非常に高いため、積極的に裏に抜け出していましたが、前半 10 分、DF 裏へのロングボールをクリアしようと GK が飛び出したところ、ボールが大きくバウンドして頭上を越え、詰めていた選手が無人のゴールに押し込み先制しました。試合の入り方も良かったので、これでリズムを掴めたかな・・・と思いましたが、逆にリードして堅くなりました。このチームは全道で勝った経験がないため、「もう1点取ろう」と声を掛け合いながらも、「守りきれば勝てる」という意識を強く持ってしまったのではないかと思います。

稚内大谷はキープ力・推進力のある FW⑩を中心に縦方向への攻撃を強めましたが、これで DF が徐々に下がり、2点目を狙おうとする前線との距離が空いてしまいました。結局、中盤が薄くなってセカンドボールが拾えず、全体的に受け身の時間になってしまったと思います。後半は堅さもとれ、主体的にボールを動かす場面が増えました。相手の CB が良い選手でなかなか中央を攻略できなかったものの、幅を使ってサイドを崩すことはできていました。⑩は後半も強力でしたが、粘り強く対応していました。その後、自分達のリズムで攻撃する時間が続き、意図的な崩しから2点目が取れたので選手達にとって自信になる1勝になりました。考査明けのタイミングで持久力に不安もありましたが、昨年までの課題であった後半のプレーの質、運動量も最後まで落ちず、大きな成長を感じる1戦になりました。

◎準々決勝 6月13日（木）10:30～（室蘭市入江運動公園 陸上競技場）

【結果】南ヶ丘 0 $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 0-0 \\ \text{延}0-0 \\ 0-1 \end{pmatrix}$ 1 北照

北照は前線に突破力のある選手、中盤に技術の高い選手、守備陣に跳ね返す力を持った選手をバランス良く配し、全道大会では早めに縦にボールを入れて高い位置に起点をつくってサイドに展開、シンプルでスピードのある攻撃をしていました。セカンドボールへの対応や空中戦もよく鍛えられており、私立高校らしいチームという印象。南ヶ丘の選手は2回戦の勝利で自信を深め、北照 vs 北星（1回戦）のビデオから試合のイメージもできていたので、良い緊張感と集中力で試合に臨みました。

立ち上がりから一進一退でした。縦へのロングボール中心にスピードとパワーで押し込む北照と FW への楔からボールを左右に動かしてサイドを攻略する南ヶ丘。中盤はセカンドボールの競り合いやパスの出所を潰すガチガチの戦い。互いにハードワークを続けて一步も引かない五分の内容になりました。この展開は後半になっても変わらず、集中力の削り合いのような試合になりました。しかし、北照の方が1試合多く、ロングボール中心の攻撃のため徐々に運動量が落ち、南ヶ丘が北照ゴール前に迫る回数を増やして後半終了。

延長戦に入ると終盤の流れをそのまま保ち、南ヶ丘のペースでした。集中力も高く、交代で入った選手もよく走ったので、延長後半には立て続けに大きなチャンスを作りました。しかしゴール前での体を張った守備、GK のスーパーセーブに阻まれて得点には至らず、逆に終了直前に見事なシュートを決められ敗戦となりました。失点シーンでは、ゴール前での動き直しの質、シュートの質に完全にやられました。1年生ながらボールを受ける前からシュートまでの流れが見事で、ペナのやや外からのシュートでしたが GK が一步も動かせませんでした。

☆昨年の選手権での反省点である、① [ロングボール主体の攻撃に後半のクリアミスが増えて CK を余計に与えた] ② [CK からの競り合いや寄せが甘かった] ことは改善されてきたと思います。北照には恐ろしく空中戦に強い長身 CB (1年生) がいて、この選手に高い精度で合わせる CK も脅威でした。結局一度も競り勝てませんでしたが、しっかりと身体を寄せて戦っていたと思います。

☆「得点を決めきる力」はいつも悩みます。何度もビックチャンスをつくったものの、決めきることができませんでした。「崩すためのあと 1 本のパス」も改善されてきたので、次は当然フィニッシュの精度です。こういう試合を勝ちきるためには重要な要素であり、大きな課題です。

☆多くの面で互角以上に戦えました。延長戦でも運動量やプレーの精度が簡単に落ちなくなったこと、勢いでゲームを進めるのではなく、試合の流れを感じ、リアルタイムで課題を改善しつつ戦えるようになったことは、90 分ゲームの効果のひとつだと感じています。

○今までに多くの全国・全道大会の会場になった入江運動公園の芝生広場・多目的グラウンドが近く閉鎖されるそうです。「サッカーのまち室蘭」の歴史が一つ消えてしまうようで寂しいものです。

2 北見北斗高校 文責 (田中)

◎ 1 回戦 6 月 11 日 (火) 10:30~ (室蘭市入江運動公園 陸上競技場)

【結果】北見北斗 0 $\begin{pmatrix} 0-2 \\ 0-1 \end{pmatrix}$ 3 市立函館

昨年度全道大会出場を逃したこともあり、今年度のチームは、全道規模の大会に初めて参加する選手が多かった。相手は函館地区予選を 1 位で突破してきた強豪、市立函館ということもあり、まずは、萎縮することなくこれまでのトレーニングの成果を発揮することが目標だった。技術が高い相手にボールを保持されてしまうことはある程度予想できていたため、守備ブロックを形成して粘り強く対応し、ボールを奪ったら縦に素早く攻撃を仕掛ける、というゲームプランで試合に臨んだ。

前半は、守備面で粘り強い対応ができていたものの、攻撃面では消極的なプレーが目立った。特に、ボールを奪った後の対応が悪く、縦パスを選択せずに (逃げるように) 横パスを選択してパスカットされたり、選択枝を持たない無理なドリブルで混戦を打開しようとしてすぐにボールを奪い返されたりする場面が多かった。攻撃面でほとんど良いところを出せず、前半をシュート 0 本で終えた。また、失点シーンについては、守備ブロックは形成できているのに 1stDF がはっきりしていないためにシュートまで持ち込まれ、こぼれ球を押し込まれて 1 点。CK でマークがあいまいになり 1 点と、もったいない失点だった。誰が寄せるのか、誰がマークにつくのかを確認し合えていれば防げた失点だっただけに、普段のトレーニングから選手同士のコーチングの機会を増やす必要性を感じた。

後半は、前半の修正点を自分たちで確認し、積極的にプレーする場面が増えた。狭いスペースであっても相手を外して縦に攻撃を仕掛けるなど、トレーニングの成果を発揮できるようになり、ペナルティーエリアに侵入し相手ゴールに迫るシーンも多く見られるようになった。守備でも前半同様粘り強く対応し続けるとともに、交代で出場した 3 年生が果敢に攻め上がるなど、後半は五分五分の戦いをすることができた。ただ、試合全体で考えると、後半も得点することはできず、逆に追加点を奪われての完敗だった。

☆U16 トレセンの重点課題にも挙げられているように、「ハイプレッシャー、ハイスピードのゲーム展開においても簡単にボールを奪われない選手」を育成していくことが、大きな課題です。そのためには、止める・蹴るなどのボールを扱う技術や 1vs1 の対人スキルなど、高校年代で軽視されがちな個人戦術に着目して、もっと個人を成長させることが必要だと感じています。

☆全道規模の大会で、強豪校との試合でも積極的にプレーできるようになるためには、地区 FA リーグのレベル向上も必要不可欠です。地区の選手の課題を共有し、地区のチーム同士で切磋琢磨できる環境を作っていくことが重要だと改めて感じました。